

私立 相模女子大学短期大学部

取組名称 就職力の向上とキャリア育成に関する取組み

取組担当者 キャリア支援グループ マネージャー 倉林 ひとみ

1. 本学の概要

本学は、1900(明治33)年に西澤之助によって創設された日本女学校を淵源とし、同校が母体となって1909(明治42)年に東京小石川区大塚町(現文京区大塚)に帝国女子専門学校が開校した。戦後の1946(昭和21)年、帝国女子専門学校は神奈川県相模原市の現在地、旧陸軍通信学校の跡地に移転した。1949(昭和24)年、新教育制度により相模女子大学として再発足した。1951(昭和26)年に短期大学部を併設し、国文科、英文科、商科、家政科を置いた。その後、1966(昭和41)年に短期大学部英文科を開設し、その後科の分離、名称変更、廃止等を行いながら、一貫した女子教育の殿堂として今日に至っている。

現在は生活デザイン学科(179名)と食物栄養学科(252名)の2学科計431名の学生が学んでいる。

本学の建学の精神は「高潔善美」である。短期大学部では、本学の教育理念である「高潔善美」を具現化するために自立できる大人の女性としての感性豊かな人間育成を図り、確かな学問研究と教養を備えた女性を社会に送り出すことを目的としている。

2. 本取組の概要

短期大学部の学生が自己の将来像を明確化し就職力を高める様々な施策を実施する。具体的に、学科教員等との連携の下、学生個人の適性を把握するために種々の適性試験を行う。これらの基礎データを基にメリハリの効いた専門学修相談員による面談や求人情報と学生の志望情報等をマッチングさせる。特に、個別指導の充実や職業意識の醸成を促進するために随時適切なキャリアガイダンスを実施する。入学後社会へ羽ばたく期間が短いこともあり、就職に有利な資格取得の支援を行い職業選択の幅を拡げ、高内定率の達成を目指す。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 本取組の趣旨・目的

入学後社会へ羽ばたく迄の期間が短い現下で、キャリアに対する意識を高める種々の施策実施により、学生のキャリア観の育成を図る。また、様々な機会提供を通じ、学生の社会性と実践力を高めるための取組を行い、就職支援態勢の強化を図る。

(2) 本取組の達成目標

本取組では、きめ細やかな学習相談等の実施により学生の就職力を高め意識等を把握・指導する。また、就職に当たり必要とされる資質能力の向上(資格取得)や基礎力の涵養を図り、学生の就職率の向上等を目標とする。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 本取組の具体的内容

本取組では、就職力を高め意識の向上を図る為に、入学後直ちに適性試験を行う。また、個々のキャリア形成の醸成を促進する為に随時適切なキャリアガイダンスを実施する。更に、就職に有利な資格取得の支援を行うことにより、職業選択の幅を拡げて、未内定者を減少させ、高就職率の達成を促す。主な内容は以下のとおりである。

(i) 学内企業面談会の強化

長期化している就職活動の支援の一環として、「学内企業面談会」を積極的に実施する。学内に一度に企業の採用担当者を招聘するので、学生たちは授業を休むことなく、空き時間を利用して面談会に参加することができるため、授業と就職活動を両立することができる。

リーマンショック以前は、学内企業面談会は、1年次の2月・3月に実施するのみだったが、景気悪化後は4月以降も引続き実施する事とし、学内へ招く企業数を増やすと同時に、実施回数も増やし、昨年度は4

月に降ほぼ毎月1回実施した。今年は、4月22日、5月26日、7月8日、8月2日、10月8日と実施する。同時に企業訪問も行っていることから、企業からのニーズがあれば、11月以降も実施したいと考えている。

これまでの最高参加企業数は31社（8月実施）で、最低は7社（昨年11月）であった。未内定学生に対して、企業との出会いのチャンスを数多くセッティングすることにより、内定に結びつくように支援した。面談会場内で、壁のそばに佇んでいる消極的な学生達に対しては、希望に近い企業のブースに誘導して貴重な機会を逃さないよう支援した。



写真1 学内企業面談会

(ii) フォロー講座の強化

景気悪化に伴い、複数回受験しても内定が出ない学生は、就職意欲が減退したり、自己嫌悪から就職活動の放棄等を起こして自宅に閉じこもり、大学に顔を出さなくなり連絡がつかなくなる場合がある。昨年までは卒業間近の2月頃に限り未内定の学生を対象に実施していたが、見直しを行いフォロー講座の強化を行った。具体的には、講座の早期開始と複数回の実施を中心に、更に学生の状況を見ながら必要に応じて実施する。フォロー講座の日程と参加人数は以下のとおりである。2010(平成22)年4月17日(6名)、5月8日(8名)、5月22日(10名)、7月3日(13名)、8月2～5日(20名)だった。8月2～5日の4日間集中の「夏季特別フォロー講座」では、事前・事後両方にアンケートを実施し、学生の実態調査を行った。事前アンケート回答者の半数が提出時には就職活動休止中であった。更にキャリア支援グループにほとんど足を運んでいない学生も半数近くいた。この講座の出席率も約50%に留まっており、学生への参加を強く働きかけることとした。一方、出席者からは、「自分に不足しているものがこの講座に出てわかった」「もう、手遅れだと就職活動を諦めかけていたが、再度やる気がわいてきた」「好きなことを仕事にしようとしていたが、自分の

適性も踏まえて幅を広げて探していく」などの前向きなコメントが寄せられた。

これからの課題は、学生を孤立化させないように緊密に連絡を取り、信頼関係を築き、更に指導を強化していくことである。

この「夏季特別フォロー講座」終了後、参加者には専門学修相談員による個人面談を実施し、更なるフォローを行った。



写真2 フォロー講座

(iii) 専門学修相談員の導入

景気悪化により、求人が大変減少しており、苦勞しているのは大学生も短期大学生も同じであるが、その中でも特に女子の、更に短期大学生の求人は、専門職を除き、一般事務職においては激減している。正規職員の採用からパート・派遣採用に切り替えたり、短期大学生から大学生へ採用を切替えるなど、新卒短期大学生の就職先が大変狭まっているのが現状である。不況で厳しい就職活動の中で、複数回受験しても、内定が獲得できない状況が続くと、学生のモチベーションが低下し、就職活動を放棄するなど、メンタル面での弱さが現れがちである。また、短期大学生は入学して半年ほどで、就職や進学について考えなくてはならず、よりきめの細かい支援・指導を行う必要があるため相談員を導入した。

専門学修相談員は、CDA資格保有者や企業の人事経験者を採用し、週3回体制を1～2名で行っている。本来、就職活動は自らの意思で行うことが前提であるが、モチベーションの下がっている学生も多いため、相談員から積極的に電話やメール等で状況把握に努め、学生一人ひとりの状況に応じた支援・指導を行っている。

(iv) 各種ガイダンスの実施

本学では、1年次の9月より就職活動の準備を始める。「木曜日は就活の日」というスローガンを掲げて就職プログラムを実施している。就職採用試験には、書

類選考、筆記試験、面接試験があり、それを全て網羅するようなプログラムである。具体的には、就職活動とは、から始まり、自己分析、マナー講座、ヘアメイク・スーツの着こなし講座、業界・職種講座、エントリーシート・履歴書作成講座、面接講座等のスタンダードな就職基礎知識講座である。それらの終了後は、実践的な模擬面接会やセミナー・集中講座等を行う。具体的には、大学に企業の人事担当者を講師として招き、学生に直接各業界が求める人材や活動の留意事項、活動時期等の情報提供を行う業界セミナーを実施する。また、学生が外部での面接経験を積む機会として、周辺の他大学と共同して模擬面接会を実施する。1年次の2月には、3～4日間をかけてこれまでの講座の総復習を実施する。こうした実践的な取組を行うことにより、学生がより自信を持って就職活動を行うことができるよう支援・指導を強化することとしている。

(v) 各種適性試験の実施

学生自身が自己分析する上で、多角的な見方ができるように、入学直後の4月に職業適性検査の実施、6月にSPI模試、性格検査(YG)、一般常識テスト実施、10月に2回目のSPI模試を実施する。解説講座も実施しフォロー面での配慮もしている。解説講座だけでは理解度が低い学生には、隔週火曜日の午前中に基礎学力のベーシックトレーニング講座を実施している。この講座は単元別個別指導を行うので、わからない問題についても一人ひとり充分時間をかけることができるのが特色である。就職活動に必要な基礎学力の向上を目指して個別目標に応じて支援している。

(vi) 就職支援システムの強化

本学学生のための求人をもっと効率的に支援できるようにするために、就職支援サイト「さがみナビ」を導入した。学生側の利点としては、以前は紙ベースのみの求人情報提供だったものが、自宅のパソコンからも求人情報を閲覧できるようになり、より迅速に求人情報が入手できるようになったことが大きな利点である。また、先輩たちの就職活動体験記もパソコンから手軽に閲覧可能になった。更に、学生の就職活動状況に応じ、求人情報のメール配信を瞬時に行うことができ、学生側と企業側それぞれの条件に合った内容を知らせることにより、学生と企業のマッチングをスムーズに行うことができるようになった。今後は学生の利便性向上のためセミナー予約・管理機能の導入を図ることとしている。

(vii) 就職に生かせる資格取得支援の充実

短期大学の学生は、2年間という短い期間内に社

会人として自立するための生活力や就職力を向上させる必要がある。そこで、学科の特性や希望職種に合わせて、実際の就職活動に有利な資格支援講座を学外の専門機関の協力を得て実施する。資格支援講座を実施するに当たっては、短期大学部長や各学科長との検討の上、生活デザイン学科では「Word・Excel」、食物栄養学科では「ホームヘルパー2級」の資格取得を目標とし、各学科教員が25名ずつ学生を選出した。選ばれた学生達には、無料で講座を受講させ、一定期間後には検定試験を受けることを義務づけた。

詳細は以下のとおりである

①「Word・Excel」について

卒業後の進路は学んだ専門知識を生かせる専門職に就くのが一番であるが、全員が望む職業に就けるわけではない。専門職の次に多くの女子学生が希望する職種として、一般事務職があげられる。そこで、一般事務職の最低限の持つべきスキルとしてこの資格が選ばれた。8月26日現在「Word・Excel」講座は終了し、23名の受験者のうち、「Word」は全員合格、「Excel」は20名が合格した。アンケート結果では、この資格は就職活動だけではなく、授業にも生かせそうだと回答した学生が38%もいた。この講座をきっかけに職業選択の幅を広げられそうかとの問いには68%の学生ができそうだと回答した。一定の成果が上がったと考えても良いだろう。

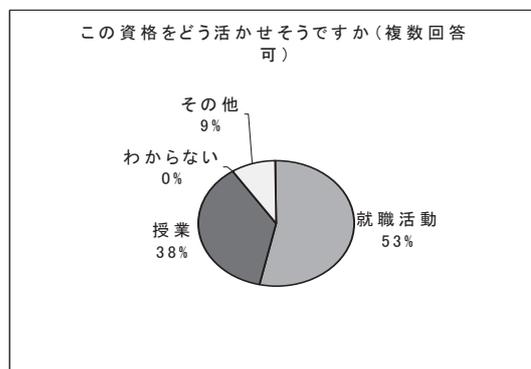


図1 アンケート結果

②「ホームヘルパー2級」について

食物栄養学科の教員の以下の意見に基づき実施した。食物栄養学科は卒業と同時に栄養士の資格を取得できるが、栄養士の求人情報は年によりばらつきがある。そこで、介護についての知識も持ち合わせている付加価値のある栄養士として、福祉施設等における合格率を上げたいという教員の配慮である。9月20日現在、ほとんどの学生が「自宅学習」・「実技スクーリング」を終え、施設実習に入っている。

(viii) 1日体験インターンシップの導入

1日体験インターンシップを導入することにより、働くことの意義を理解し、職業選択の幅を広げることにより、今後のミスマッチの防止が図られると考える。実施の中心課題は、職種理解に据え、学生が実社会を垣間見るチャンスとする。

昨年以前のインターンシップは食物栄養学科2年生の2日間の保育園に限られていた。2010(平成22)年の2月には、1日体験インターンシップを企画・実施し、生活デザイン学科教員の指導のもと、1年生が7名参加した。生活デザイン学科の就職はアパレル関連企業の販売職が多く、実習先はアパレル関連の専門商社を開拓した。午前中は業界研究・会社説明とマーケットリサーチ、午後は春物の企画書の作成と発表等充実した内容であった。実習終了後のアンケートには「実際に体験して見てグループで物事を進めていくことの難しさを感じた」「この経験を生かして様々な業界を知ってみたい」「他の企業のインターンシップにも行ってみたい」など、意識の向上が見られた。今後もインターンシップ受入れ先企業を更に開拓して、できるだけ多くの学生たちが社会に触れられる機会を増やすよう努めていく。



写真3 1DAYインターンシップ

(2) 本取組の実施体制

学長・副学長(教育担当)・各学科長・全学学生支援委員会に学生情報を積極的に提供することにより、教員と共同して、学生支援センター長の下、キャリア支援グループ(事務方)が部局となって本取組の円滑な実行を図る。

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 本取組の評価体制

副学長(教育担当)が統括する全学学生支援委員会において、各取組の実施状況の点検・評価を行い、課

題を明らかにし、学長・副学長・学科長・学生支援センター長等関係者の指導の下改善案を策定し実行する。

(2) 達成目標に対する達成度についての指標

急激な就職氷河期に向かっているが、本取組によって指導の強化を図り、昨年度の本学の就職内定率(83.8パーセント)の達成を目指す。

6. 本取組の実実施計画等

(1) 実施計画

本補助事業の目的を達成するため、以下のとおり実施する計画である。

2009(平成21)年度

- 2月 1DAYインターンシップ
- 3月 学内セミナー

2010(平成22)年度

- 4月 職業適性検査
- 4月～翌3月 企業訪問(25日×4社)
- 4月～翌3月 フォローセミナー(12回)
- 4月～12月 筆記対策セミナー(6回)
- 4月～翌3月 学内企業面談会(8回)
- 6月・10月 筆記対策模試
- 8月～翌2月 Uターン企業開拓(5箇所)
- 8月 インターンシップ・パソコン講座
- 8月～10月 ホームヘルパー2級講座
- 9月～12月 就職準備講座他
- 9月～3月 内定取消し・未内定者講座
- 10月 個人面談の実施
- 11月 エントリーシート対策講座
- 11月 他大学との模擬面接会
- 2月 1DAYインターンシップ・就職直前セミナー

(2) 財政支援期間終了後の展開

本取組は、学生が女性として自立することを目指す本学のキャリア支援全体の中で行っていくこととしている。また、本年5月の中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会の第二次審議経過報告、短期大学設置基準の改正を踏まえて、現在学内に於いて検討中のカリキュラムへのキャリア教育の導入と連動した取組として、今回の成果を検証しながら推進する予定である。